

291
95

20
0

8 9 県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 04021 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9

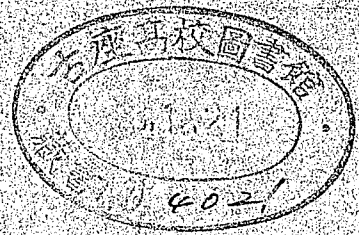
瑛屋隨筆 三

291
95

20
9

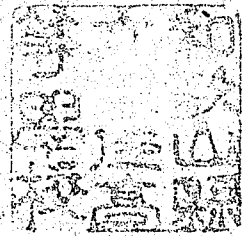
29/
25
1

中根七郎
寄贈



璞屋随筆

第三編



瑛屋隨筆第三編

目次

年寄温泉考

熊野治華文書

萬葉集略解一節抄二頁子ついで

熊野の熊野冬とついで

熊野十九王子の事

置廣父の詠

かきかたしついで

新雨の事

流行言草

無神の言草

御頭言草

宗鏡といふ事

死名の名詞

山名をよみよき無神と云ふ事

一 六 七 九 三 四 五 六 七 八 九

日本書紀十四年夏四月丙子朔己卯。行伊國司宮。宇耜湯泉浸而不出世。

とありを見ても著し。其年耜湯泉とあり。神戶御の湯澤中岡の事なり。

宇耜湯泉浸而不出世とありは、海濱に湯澤ありて、増設したる事なり。今もたゞる

の湯あり。砂石に湯ありて、一とせしむるべし。あつたは西原に湯澤あり。神中嶽湯澤

湯澤、神中嶽湯澤、神中嶽湯澤、神中嶽湯澤とあり。然るに伊耜湯泉とありの語あり。

伊國とあり。伊耜湯泉とあり。

又湯泉記中書明記と云。武紀と云。又書記持信天皇四年九月天皇幸行

伊國とあり。伊耜湯泉とあり。

九月(甲子)乙酉詔曰。朕將巡行伊國之故。勿忘今年京師日租口賦。丁

亥。天皇幸行伊國(甲子)乙酉(甲子)乙酉。伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日

伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行

伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行

伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行

伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行

伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行

伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行

伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行

伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行

伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行

伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行

伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行

伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行

伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行

伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行

伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行

伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行

伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行

伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行

伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行

伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行

伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行

伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行

伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行

伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行

伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行

伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行

伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行

伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行

伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行

伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行

伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行とあり。九月十三日丁酉日伊國巡行

ワカセコハ、マツヤツツラシ
名勢子波、借塵作良須、草色者、十松下乃、草乎刈核
吾敬之、野島波見世道、唐澤使、何胡根能薄乃、珠曾不枯
孝子紀伊國時川島皇子御作歌、或曰山上階良作
白浪乃、濱坊之枝乃、手向草、義代左右之有、年乃怪者良武
一六年者怪、草許武

日本紀曰朱鳥四年庚寅於九月天皇幸紀伊國也
紀伊見子、持統天皇四年於幸あり、則朱鳥五年如、くは誤れりと略解

此也是能、後再四手者、我意深、木路再有云、名再負勢山
以上二首は紀伊國時出行之時の時歌也

大正元年辛丑秋九月大上天皇幸于紀伊國時歌

持統天皇あり、又武紀於月田國幸の所上天皇と云ふは、かたし略解の
巨勢山乃、到列橋、都良都良草、見在思草、森端乃春路乎
古一首、門人足
辨名者、木人之母、海井山、行末路見良武、婿人吉師母
右一首、詢首淡路

同 卷第二

後尚本宮御宇天皇代天聖時重日足姬天皇 續本奇明と云ふ

有馬皇子自傷 結核枝新二首
盤代乃、濱坊之枝乎、引結、真草有者、亦還見武
美有者、箭再盡銀乎、草枕、夜再之有者、推之第一再盡
長思十意古海見結核家烟語二首

山上臣 德良造和歌一首
鳥翔成、有枝波比登、見良同母母、人社不社、以者新良武
古作新等解不挽拒之時所作、唯擬新等、故以載于後類類焉、
後類の字、おみ、古事類の類と云ふ、若し、たす也と略解する、
大正元年辛丑紀伊國時見結核新一首 元節本朝臣人新等、
中出也と云ふ

鳥翔成、有枝波比登、見良同母母、人社不社、以者新良武
古作新等解不挽拒之時所作、唯擬新等、故以載于後類類焉、
後類の字、おみ、古事類の類と云ふ、若し、たす也と略解する、
大正元年辛丑紀伊國時見結核新一首 元節本朝臣人新等、
中出也と云ふ

後折見物、君之結有、盤代乃、舟地之宇禮乎、又折見香同
卷第九

山崎本言御心下天皇幸紀伊國時歌二首

幸沖云、舒明紀を著るに、紀伊幸し、西の事見えず、しに、後前不言し、
幸時天皇の紀に、紀伊の温泉入幸せさせし事、紀伊見事と略解あり。
為妹、吉玉塔、奥邊有、玉傍持有、奥津白波、
相尋尋、右尋之衣、石干而、一舞君之、山道折歌、
右二首作者未詳

大正天皇幸里谷十月大上天皇大行天皇幸紀伊國時歌十三首

大上天皇と申すは、持統天皇御紀に、紀伊大上天皇の幸を載すは、
又か、この大行二字は金懸又ありと略解あり。
為妹、我玉衣、於彼邊有、白玉衣末、於彼都白波、
右一首上見取畢、世歌終小操、幸似相違、因何里哉
白崎者、幸有徳、大所再、真操、又持、
三石新乃波、盤代乃、湯霧所、釣為海人乎、見妻持末、
朝向、橋出而後者、湯霧所、釣為海人乎、見妻持末、
湯霧乃前、盤代乃初良心、白神之、磯浦繁乎、取而橋邊

皇中乃、盤于之浦乎、紅、玉裾須、
仙真乃、冷之白浪、徒、於新依久流、先人無、

一云於新依末篇

右一首止臣禮良類集新林曰、長付忌意去麻冬、應記作此歌
可道わらら、依若けゆ早の得り、し、し、名部と出さの坊

我北背見物、僕持末折歌、出さ之、
盤白之、三石新乃波、白標之、
山道折、問往彼、大行尋之、
勝解不和名抄紀伊名部大皇、又大皇御有、
一云、
木因之、昔可雄之、
城因耳、不止持地末、事社、
一云、
後上耳、
朝蒙老、木方往君我、信出心、
教監今何言、一何草香根、

後人歌二首、後存の人の事あるべしとあり、
朝蒙老、木方往君我、信出心、
教監今何言、一何草香根、

みたれたるものたるべし。

中大兄 近江言持宇天皇 三山歌一首

かみゆきなふらぬきをいとみせしとちあはれみ事かみゆきりかくだりし
高の波 雲根文雄思志等 四聖典 相許讀伎 神代後如対一耳有良之 古昔女
しかならばこそうせみし 一もをあらそひらら一也
世尊母許曾 雲根毛 常平相持曾志古

返歌

かみゆき みゆきやしと おみーとあ たちこみわしー いたるまはら
高の波 耳敷山共 相三條 三見耳末之 何奈妻國治良

法親小言の 若沖か現のこころ かく山をばとてをき見はし
一 若沖のこころ 又所は是の男神のこころ ありあはれみ事かみゆきりかくだりし
二 若沖のこころ 又所は是の男神のこころ ありあはれみ事かみゆきりかくだりし
一也と書す。

可道日書報大御男志十歳大を愛しと句をゆりて見しノレ。御男志又文字に
なつて一 熊火山の男の思ひあやせられたり。また返歌香とて身榮山に
時中 男女の思ひ違ふ一 若沖のこころ 又所は是の男神のこころ ありあはれみ事かみゆきりかくだりし
又のこころ 又所は是の男神のこころ ありあはれみ事かみゆきりかくだりし

の考(イ)ノイヤ。志ある後ある書は辨と見しノ 予田萬原家出見あり(書は辨と
志ある)又木村正徳の又みゆきりかくだりし一 若沖のこころ 又所は是の男神のこころ ありあはれみ事かみゆきりかくだりし

熊の熊野の事

南蕃大同記善三 同宿身系藤城の條に、杉原七郎左衛門を八置云、夜番
廻番婦の熊野の事、さうしく、障向のたぐ見はしとあり、此説何の書物かと
したる、志ある(かん一)。

熊野九十九王子の事

熊野九十九王子は櫻津園東生部ノ一熊野子かけ九十九所ありと云。後鳥羽院
熊野御宇記ノ卷ノ見えす。こは本堂九十九所あり、又は書外あるか本
ノ條也。ある書みだすと云ふ如し。

- 一 所部野王子 櫻津園東生部野村にあり
- 一 櫻王子 和泉国大鳥郡向井領に在る詳

其所在向井領には本塔也、後鳥羽院御宇記に云、建仁元年十月十六日奉塔
王子。(十六日の十は熊野ノ、字はたつと云ふ)

一 大鳥居王子 和泉国大鳥郡小玉子村に在、同上塔御宇記に見ゆ。

九

一 山田王子 同国和泉郡信太村に在り、同上寺堂地を見申
 一 二子王子 同国同郡白田村に在り、同上寺堂地を見申
 一 無降伏降の鳥居 同国同郡中道の鳥居に在り、相傳に白河上皇建立と云ふ事あり
 一 井の口王子 同国和泉郡井の口村に在り、無降伏降寺地と爲る事あり
 一 池王子 同国和泉郡池田村に在り、相傳に白河上皇建立と云ふ事あり、今一ノ口は積川領也
 一 近木王子 同国日根郡王子村に在り、相傳に白河上皇建立と云ふ事あり、今一ノ口は積川領也
 一 貝田王子 同国同郡鶴石村に在り、又鶴石王子と云ふ事あり、今一ノ口は積川領也
 一 今一ノ口八幡社
 一 淡山王子 同国和泉郡生田に在り、又生田王子と云ふ事あり、無降伏降寺地を見申
 一 敷持王子 同国所不詳
 一 畑木新王子 同国所不詳
 一 佐野王子 同国同郡土持南街道の西に在り
 一 櫻井王子 同国日根郡櫻井村長崎の傍に在り、在名取村に在り
 一 鹿戸王子 同国同郡信達大畑村に在り、又信達の王子と云ふ事あり、又馬場王子
 一 一ノ口王子 同国同郡信達大畑村の南に在り、又信達の王子と云ふ事あり

一 長岡王子 同国同郡同村の十段中に在り、此は相傳に在り
 一 地蔵堂王子 同国同郡瑞雲寺の境内に在り、今一ノ口は相傳に在り、今山中村地
 一 瑞雲寺
 一 山中王子 同 馬場王子と云ふ事あり、山中村に在り
 一 八王子の社 同国同郡山中村に在り
 一 菅社 菅社名草郡同村の郷に在り、親世を本地主、澤田即其真は表
 一 應三年八月由縁有て、所不詳、今一ノ口は相傳に在り、別に社傳見
 一 年親寺を建立と云ふ事あり
 一 中山王子 同国同郡草郡新田村に在り、相傳に白河上皇建立と云ふ事あり、建仁元年十
 一 月八日参り中山王子
 一 山口王子 名草郡山口は湯谷村に在り、無降伏降寺地を見申
 一 川辺王子 同郡川鍋村に在り、同上寺堂地を見申
 一 中村王子 同郡和佐在り、中村に在り、相傳に白河上皇建立と云ふ事あり
 一 和佐王子 同郡和佐を稱す、中村に在り、無降伏降寺地を見申
 一 平崎王子 同郡山崎を平崎村に在り、同上寺堂地を見申
 一 なくち王子 名草郡奥平佐村に在り、相傳に白河上皇建立と云ふ事あり
 一 松坂王子

建仁元年十月八日御幸記のいふ平清盛王子非道次之間不考云、先達許幸幣

王子次、松坂王子の考、其所不詳

一 杉竹王子 海平部大路村に在り、建仁元年十月八日有如云日壞下治考善

一 善提王子 同部田左山田村に在り、御幸記に付善提王子とあり。

一 後戸王子 同部藤白崎にあり、御幸記に見中。

一 藤白王子 同部 御幸記に五所王子とあり

一 五休王子 同部加茂に在り、御幸記に見中。

一 橋下王子 同部同村に在り、御幸記に相下王子。

一 橋本王子 同部 御幸記に云、建仁元年十月九日考相下王子次、考理唐坂

一 所坂王子 王子

一 壹王子 同部 壹村に在り、御幸記に、考一志臣王子次、昇蓋坂水有坂王子

一 蓋坂王子 同部 蓋坂南地蓋坂村に在り、御幸記に云十月九日考蓋坂王子次

一 山口王子 同部 山口王子次、入蓋坂

一 山口王子 同部 山口王子次、入蓋坂

所寄原云々

一 糸籠王子 有田郡糸籠に在り、御幸記に見中。

一 深川王子 同部 深川村に在り、御幸記に云、考深川王子次、又考深川王子

一 タノヤキ王子 同部 同村に在り、御幸記に云、考井園王子

一 津東王子 同部 津東村に在り、御幸記に云、考津東王子

一 江ノ瀬王子 同部 江ノ瀬村に在り、御幸記に云、考江ノ瀬王子

一 唐谷岩樹王子 同部 唐谷岩樹村に在り、御幸記に云、考唐谷岩樹王子

一 馬留王子 同部 馬留村に在り、御幸記に云、考馬留王子

一 けりや王子 同部 けりや村に在り、御幸記に云、考けりや王子

一 鍵懸王子 同部 鍵懸村に在り、御幸記に云、考鍵懸王子

一 高家王子 同部 高家村に在り、御幸記に云、考高家王子

一 柳王子 同部 柳村に在り、御幸記に云、考柳王子

一 相王子 同部 相村に在り、御幸記に云、考相王子

一 藤王子 同部 藤村に在り、御幸記に云、考藤王子

一 藤王子 同部 藤村に在り、御幸記に云、考藤王子

- 一 八海士王子 同郡同八幡山麓に在り、御幸記
- 一 之積王子 同郡ヤ松原村西の方亭下余の在り御幸記に不載、財部王子。
- 一 いはろ王子 同郡山田庄岩内村に在り、御幸記に在り、十月十日、後川宮岩内王子
- 一 美人王子 同郡同左の徳屋陣に在り、御幸記に在り、十月十一日、後徳屋王子、其邊又勝地有秋云。
- 一 上野王子 同郡上野庄上野に在り、御幸記に見えたり。
- 一 岡の王子 同郡上野庄津井村に在り、御幸記に津井王子と有其所不詳。
- 一 所王子 同郡同南在中村に在り、御幸記に不載
- 一 富の王子 同郡南庄岩内村に在り、御幸記に在り、十月十一日、冬、イカカ王子
- 一 切目王子 同郡切目庄切目村に在り、御幸記に在り、後鳥羽上皇御親政時命あり。
- 一 中山王子 同庄島田村榎木原中に在り、緑楊柳子とあり、御幸記に在り、十月十二日、秋、山崎切目中山王子
- 一 常代王子 同郡南郡庄常代村に在り、御幸記に在り、十月十二日、冬、常代王子
- 一 千屋王子 同庄千屋村に在り、御幸記に見えたり。
- 一 女王子 同郡千屋村に在り、御幸記に見えたり。
- 一 出さ王子 同郡西の谷村に在り、御幸記に在り、先陣奉出三王子

- 一 女井王子 同郡下林津村に在り、御幸記に在り、十月十三日、早、前陣奉出秋津
- 一 女王子 同郡下林津村に在り、御幸記に見えたり。
- 一 影見王子 同郡三橋庄下三橋村に在り、御幸記に在り、五丁、左方、御幸記に三橋の王子とあり。
- 一 八世王子 同郡同左の岡村に在り、御幸記に見えたり。
- 一 岩田王子 同郡岩田川邊に在り、御幸記に在り、輪、岩根王子とあり。
- 一 一ノ橋王子 同郡一ノ橋村に在り、御幸記に在り、一ノ橋王子
- 一 数川王子 同郡数川村に在り、御幸記に見えたり。
- 一 瀧尻王子 同郡瀧尻村に在り、御幸記に在り、建仁元年、十月十四日、秋、御幸記に在り、瀧尻王子
- 一 不持王子 同郡不持村に在り、御幸記に在り、十月十四日、山、御幸記に在り、不持王子
- 一 高原王子 同郡高原村に在り、御幸記に在り、御幸記に見えたり。
- 一 大門王子 同郡大門村に在り、御幸記に見えたり。
- 一 大坂本王子 同郡大坂本村に在り、御幸記に見えたり。
- 一 近野王子 同郡近野村に在り、御幸記に見えたり。
- 一 比身原王子 同郡比身原村に在り、御幸記に見えたり。
- 一 榎橋王子 同郡榎橋村に在り、御幸記に見えたり。

一 中ノ川王子 同村裏に七丁にあり、御幸地に見えり
 一 小原屋王子 同村より東に、舊蹟にあり、社あり、碑石を建てたり
 一 若狹王子 若狹上詰にあり、御幸地に見えたり
 一 湯川王子 湯川村にあり、御幸地に見えり
 一 猪鼻王子 三舞村に在り、社あり、御幸地に見えたり
 一 若門王子 御幸地に在り、今日王子湯川に猪鼻御幸地、若門王子と云ふ
 一 木香王子 若門に在り、今日王子湯川に猪鼻御幸地、若門王子と云ふ
 一 伏拝王子 伏拝村にあり、社あり、石碑あり
 一 後殿王子 御幸地に在り、今日王子湯川に猪鼻御幸地、若門王子と云ふ
 以上九ヶ所社あり、九ヶ所敷たり、左の王子社は、順路をたれば九十九の敷の外た
 りに六ヶ所不詳
 一 八王子 西ノ谷村上の山にあり
 一 若一王子 下秋津村
 一 若一王子 新中村
 一 若一王子 又、史記路筋、新宮迄の間にあり、王子の敷は左の通り
 一 王子社 若居村 一 若一王子社 大向川村
 一 王子権現社 周参見村 一 若一王子 和深川村

一 王子権現社 此中村
 一 王子社 三尾川村
 一 若一王子社 中野村
 一 若一王子社 二の湯村
 一 湯王子 下野村南三ヶ所あり
 一 又、新宮より南に、御幸地にあり、あるまじの社の敷左の通り
 一 氏神社 一 初王子 湯野村
 一 八王子 矢の湯村 中屋村
 一 八王子 新中村 矢口湯
 一 八王子 島腰湯 二御村
 一 八王子 中桐村

南尾神社録曰、後醍醐天皇、安永年間、修造の權札、今尚存と、神社記云、夫、修造之
 志摩國安房郡本村三郷、皇七郷、當社、御神、牛頭天王八王子、湯野、湯野
 然れども、是等は、九十九王子の内、にあらざる事、は、其は、皇を、本宮、湯野、湯野の
 御、湯野に、九十九の、途、御、所、を、設け、給ひ、終り、も、た、た、れ、け、り、た、り、
 一 若一王子

京都神林寺の如くあり、権現社の鳥居の銘云、後白河法皇勅清盛公卿

有権現於此地御三王子と山崎名勝志あり御幸に京都赤山寺三王子の
 社より御幸山崎に九十九所の三王子社を建て御幸の御懸所へ給ふ是則三所
 権現の遷拝の地たりとあるは是なり。

一 後鳥羽院御遷御時奉記に建仁元年十月五日天照鏡鏡以後、奉告より申始
 許者本津御遷御先約拜三王子、又口前後合會、良久、舟船着御、舟御遷御
 拜三度先達部、出出御、御遷御、皇神樂了、上下乱舞、有光入り、已前退治、
 即騎馬馳奔、先陣奉給、三王子、又如前儀、又先陣奉給、三王子、如前儀、三王子日
 神境、弘治馬指參、御遷御三王子とあり、

一 和漢三才圖會攝津地部に大江山在、在京橋天神橋之間、方角抄云、三王子寺
 之北一里、長柄之南、三王子之結果、昔有渡邊橋、今則亡、在懸梯、三王子社、因
 鳥羽皇孫、着其社前、據此、則今三王子、八軒屋之邊、所謂渡邊橋者、今名天
 滿橋之邊、三王子社、舊跡有、大石、而近末、宮社、為在、御遷御、大明神、御遷御、所、思、以、
 矣、自、社、南、向、御遷御、而、東、生、西、生、之、神、境、也、

置座父の説

萬葉集卷十の

新羅國鹿火屋かみか鳥かかはる聲たかきかはわれ三のや

また巻十に

新羅國鹿火屋かみか鳥かかはる聲たかきかはわれ三のや

の註にかみかは猪鹿を逐ふさま候座に財か入居り、座は座たを境、と早也、
 くやらをいふなり。

可道抄に、鹿火屋、鳥火屋の事あり、此等、郡山向か、つかり、御遷御、

あり、といふに、禮禮、御遷御、あり、とも、大福、と、山田、御遷御、あり、とも、御遷御、あり、とも、

猪をかきり、鳥をかきり、猪鹿のかきり、と、いふ、つたり、さ、は、鳥火屋と、

も、かきり、と、いふ、なり、い、一、御遷御、御遷御、相、懸、け、と、い、つ、れ、と、秋、か、す、と、い、ふ、

る、也、常、あ、れ、と、二、首、は、春、駒、の、山、田、を、守、る、鹿、火、と、見、る、か、た、か、か、あ、る、や、と、い、ふ、

是、は、鹿、と、い、ふ、蛙、と、い、ふ、御遷御、の、い、お、れ、は、た、り、且、か、か、座、は、候、座、の、事、を、座、

火、屋、と、座、と、の、事、を、い、ふ、なり。

同集卷十一に

是、の、山、田、守、を、ち、か、置、座、の、い、た、か、れ、の、い、お、れ、と、い、ふ、なり、

註にかみかは三の意、侍有、つたり、猪鹿を逐ふさま候座に財か入居り、座は座たを境、と早也、

くやらをいふなり、一、つ、御遷御、あり、とも、大福、と、山田、御遷御、あり、とも、御遷御、あり、とも、

猪をかきり、鳥をかきり、猪鹿のかきり、と、いふ、つたり、さ、は、鳥火屋と、

も、かきり、と、いふ、なり、い、一、御遷御、御遷御、相、懸、け、と、い、つ、れ、と、秋、か、す、と、い、ふ、

る、也、常、あ、れ、と、二、首、は、春、駒、の、山、田、を、守、る、鹿、火、と、見、る、か、た、か、か、あ、る、や、と、い、ふ、

是、は、鹿、と、い、ふ、蛙、と、い、ふ、御遷御、の、い、お、れ、は、た、り、且、か、か、座、は、候、座、の、事、を、座、

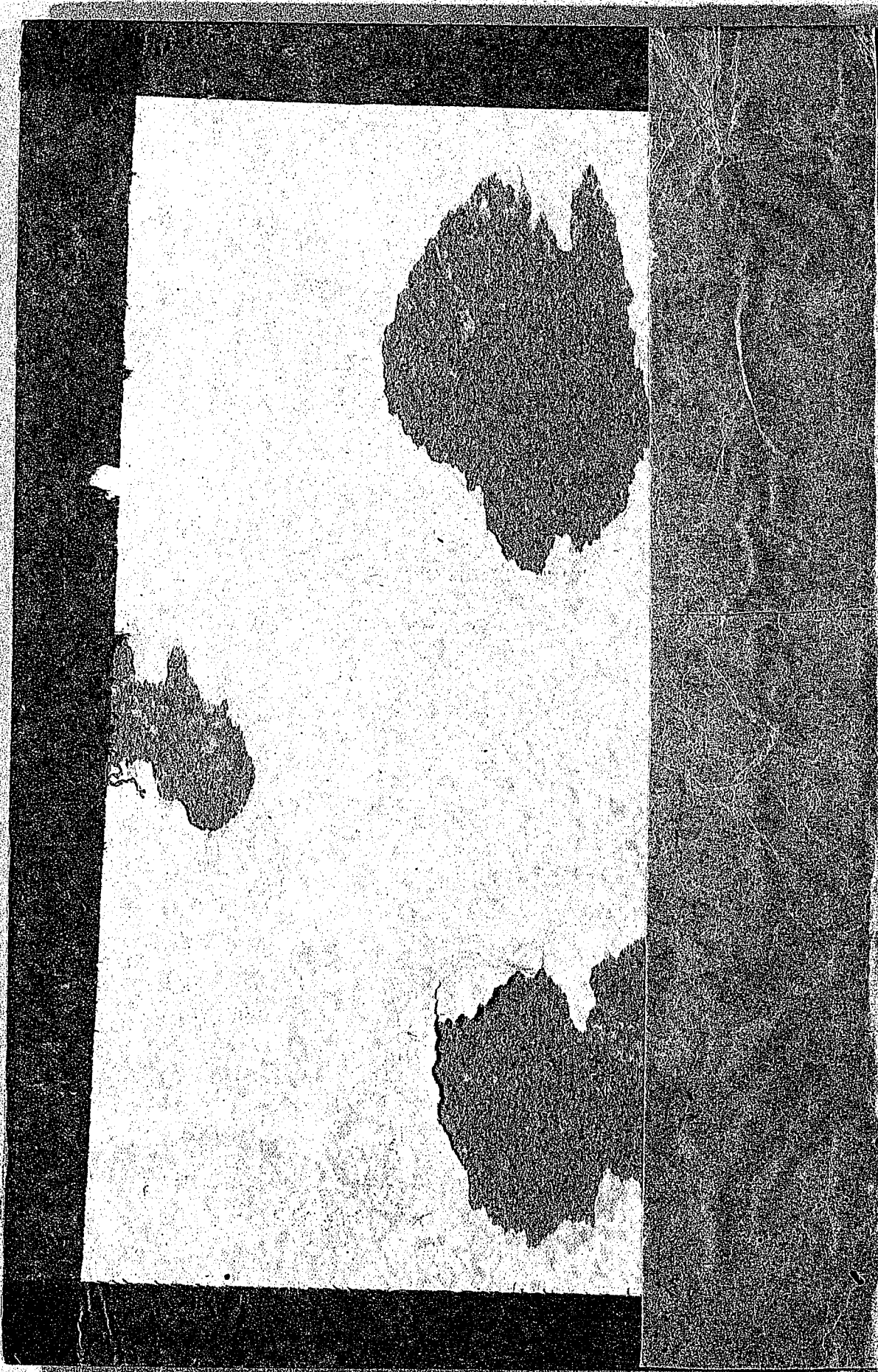
火、屋、と、座、と、の、事、を、い、ふ、なり。

近江五子社
相模五子社
重盛五子社
大門五子
佛尾五子社
新田五子社
市邊五子社
今市五子社
八上五子社
新田五子社
一乃五子社
結津五子社
出雲五子社
吉野五子社
所部五子社
少佐五子社
中山五子社
切目五子社

近江五子社の係り、近江、美濃、飛騨の三郡に
相模五子社の係り、上野、下野、水戸、武蔵の四郡に
重盛五子社の係り、河内、美濃、飛騨の三郡に
大門五子の係り、近江、美濃、飛騨の三郡に
佛尾五子社の係り、美濃、飛騨の二郡に
新田五子社の係り、美濃、飛騨の二郡に
市邊五子社の係り、美濃、飛騨の二郡に
今市五子社の係り、美濃、飛騨の二郡に
八上五子社の係り、美濃、飛騨の二郡に
新田五子社の係り、美濃、飛騨の二郡に
一乃五子社の係り、美濃、飛騨の二郡に
結津五子社の係り、美濃、飛騨の二郡に
出雲五子社の係り、美濃、飛騨の二郡に
吉野五子社の係り、美濃、飛騨の二郡に
所部五子社の係り、美濃、飛騨の二郡に
少佐五子社の係り、美濃、飛騨の二郡に
中山五子社の係り、美濃、飛騨の二郡に
切目五子社の係り、美濃、飛騨の二郡に

常陸五子社
叶五子社
上野五子社
結津五子社
出雲五子社
吉野五子社
所部五子社
少佐五子社
中山五子社
切目五子社

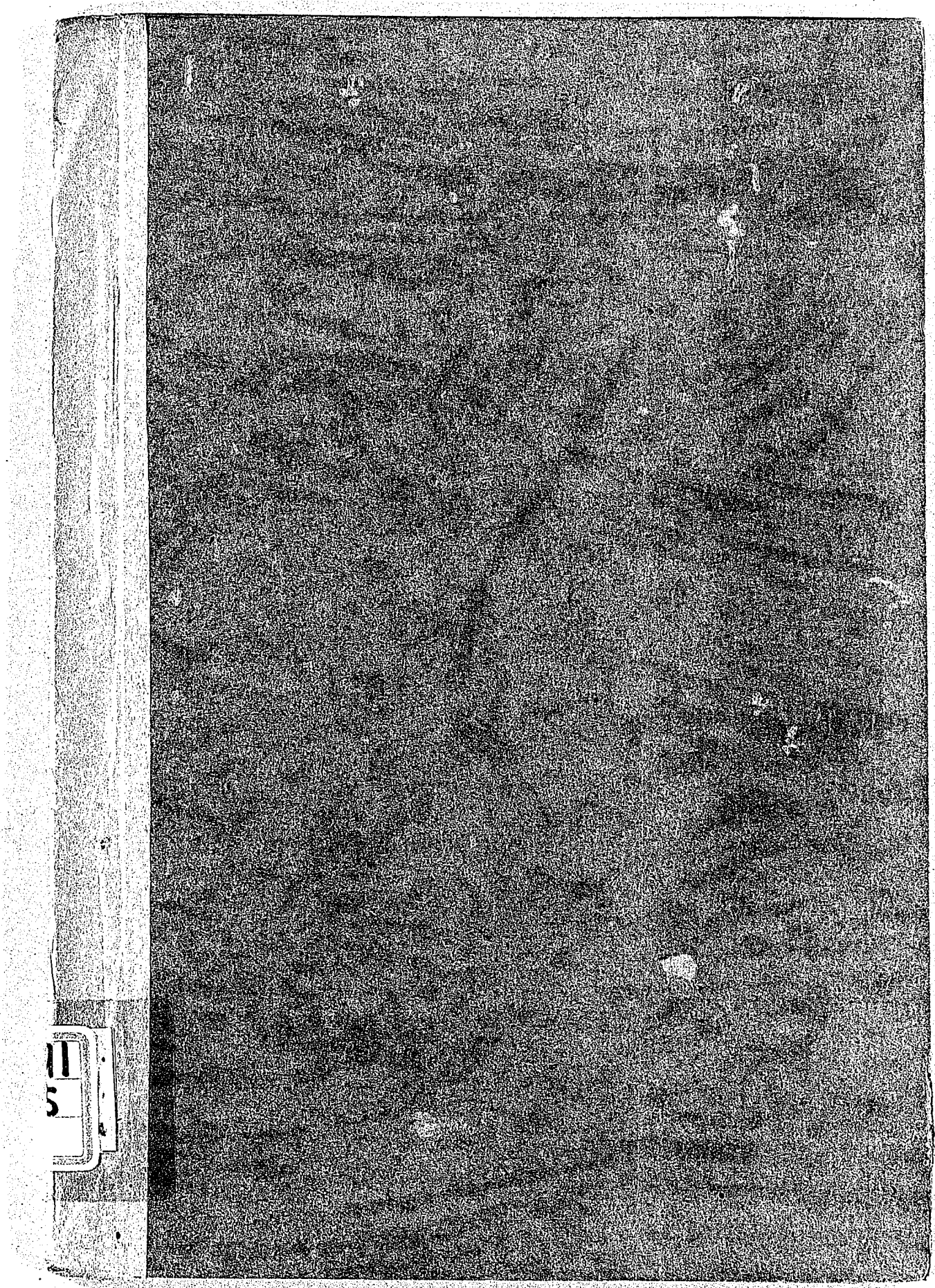
常陸五子社の係り、常陸、美濃、飛騨の三郡に
叶五子社の係り、美濃、飛騨の二郡に
上野五子社の係り、美濃、飛騨の二郡に
結津五子社の係り、美濃、飛騨の二郡に
出雲五子社の係り、美濃、飛騨の二郡に
吉野五子社の係り、美濃、飛騨の二郡に
所部五子社の係り、美濃、飛騨の二郡に
少佐五子社の係り、美濃、飛騨の二郡に
中山五子社の係り、美濃、飛騨の二郡に
切目五子社の係り、美濃、飛騨の二郡に



上ノ子社
 市ノ子社
 所ノ子社
 山ノ子社
 川ノ子社

此ノ子社ノ名ニシテ其ノ社ノ名
 市ノ子社ノ名ニシテ其ノ社ノ名
 所ノ子社ノ名ニシテ其ノ社ノ名
 山ノ子社ノ名ニシテ其ノ社ノ名
 川ノ子社ノ名ニシテ其ノ社ノ名





11
5

8 9 県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 04021 1 2 3 4 5 6 7 8 9 160 1 2 3 4 5 6 7 8 9